令和８年度

履修の手引き

弘前大学大学院保健学研究科

保健学専攻（博士前期課程）

もくじ

Ⅰ．弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程）について…… 1
1．基本理念
2．教育目標
3．教育課程の編成・実施
4．学位授与の方針
5．教育方法と指導体制

Ⅱ．教育カリキュラムについて…… 3
1．修了要件…… 3
2．授業科目と履修方法…… 4
1）授業科目について
2）履修方法について
3）履修モデルについて
3．指導教員…… 5
4．開講の形態と授業方法…… 6
5．履修科目登録について…… 6
1）履修科目登録手続き
6．成績評価・単位認定…… 7
7．学位論文審査基準…… 8
8．その他…… 8

Ⅲ．令和８年度保健学研究科学年暦…… 8

Ⅳ．研究の進め方について…… 9
1．研究活動のマイルストーン
2．注意事項

Ⅴ．各コースの紹介 …… 10

Ⅵ．教育職員免許状の取得について…… 11

＜資料１＞　保健学研究科規程別表…… 13
＜資料２＞　各領域の履修モデル…… 18

Ⅰ．弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程）について

1．基本理念

保健学は，人間を身体的・精神的・社会的に全人的な存在としてとらえ，人々の健康について探求し，健康と福祉の向上に寄与する学問領域です。弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程）では，保健学の領域における教育と研究を通して，その成果を社会に還元することにより，人類の健康と福祉の向上に寄与することを基本理念とします。

2．教育目標

①高度専門知識・技術を持つ人材の育成

高度な専門知識と技術を有し，理論の構築とそれに対応した実践，新しい技術開発のできる人材を育成します。

②管理実践能力を持ち，指導的立場を担える人材の育成

多様な専門職の連携によりチーム医療を実践し，新しい視点と戦略をもってリーダーシップを発揮できる人材を育成します。

③地域で活躍している保健医療専門職の能力開発

保健医療専門職の現職者が就学しやすい教育体制を整備し，地域保健医療福祉の充実・向上に貢献できる人材育成を目指します。

④教育・研究者の育成

博士前期課程を修了後，博士後期課程へ進学することを視野に入れ，新たな研究分野を自ら開拓しうる資質の高い教育・研究者を育成します。

3．教育課程の編成・実施

（１）共通コア科目

共通コア科目は，医療チームの中で指導的役割を果たせるメディカルスタッフ養成のための共通した知識の修得及び具体的な修士論文作成に当たっての学際的研究手法の修得を目的としています。

（２）専門科目

専門科目は，専門分野の基礎，専門知識の取得を目的とした各領域の特論と修士論文作成に向けた一貫した指導を目的とする所属領域の基礎特論・演習・特別研究で構成しています。

（３）成績評価

単位修得の認定は試験によるものとしますが，科目によっては，平常の成績又は報告書等の結果により認定します。授業科目の履修成績は，成績評価基準に基づき厳密に評価します。

4. 学位授与の方針

保健学研究科（博士前期課程）では、人材養成の観点に立った本研究科の教育目標に沿って定めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）を修得した者に対して、それぞれの学位を授与します。

【看護学領域】

1.知識・理解の修得

・専門領域をより深く理解できるための高度な専門知識

・専門領域と密接に関連する他領域の専門知識に関する包括的・多角的な理解

2.当該領域固有の能力の修得

・臨床・地域保健医療活動の場において、根拠をもって看護を実践できる能力

・臨床・地域保健医療活動の場において、問題の本質を見抜き、倫理的・科学的に分析し解決できる能力

・保健・医療・福祉の教育機関において、教育・研究を実践する能力

3.汎用的能力の修得

・様々な状況において、自己管理、協働、プレゼンテーションができる能力

・他領域の専門職者と連携して保健医療の発展に寄与する能力

【放射線技術科学領域】

1.知識・理解の修得

・高度な専門知識と技術を基盤として理論や確立途上のエビデンスを追求し、それに対応した実践や新しい技術の開発ができること

2.当該領域固有の能力の修得

・生体からの情報について、生物学的、化学的及び物理学的手法を駆使して評価解析できる能力

・評価解析結果を診断や治療へ応用発展できる能力

・保健・医療・福祉の教育機関において、教育・研究を実践できる能力

3.汎用的能力の修得

・様々な状況において、自己管理、協働、プレゼンテーションができる能力

・国際社会で活躍できるコミュニケーション能力

・様々な専門職の連携によりチーム医療を実践し、新しい視点と戦略をもってリーダーシップを発揮できる能力

【生体検査科学領域】

1.知識・理解の修得

・生体検査科学における高度な知識と技術

・病態と細胞レベル・分子レベルにおける事象との関連についての理解
・異分野の研究領域への関心と理解

2.当該分野固有の能力の修得
・高度な専門知識と技術を基盤として理論や確立途上のエビデンスを追求し、それに対応した実践や新しい技術を開発できる能力
・生体成分の新たな機能解析や検査技術開発に向けた研究に取り組める能力

3.汎用的能力の修得
・倫理的な思考、問題解決ができる能力
・国際社会で活躍できるコミュニケーション能力
・医療における倫理と責任を強く自覚した保健医療分野のリーダーとしての能力

【総合リハビリテーション科学領域】

1.知識・理解の修得
・リハビリテーション科学領域に関する専門的知識の体系的理解と、専門分野をより深く理解するための高度専門知識の修得

2.当該分野固有の能力の修得
・人間の運動から生活活動、障害予防までの広い範囲で障害を捉える視点
・リハビリテーション科学領域で扱う評価・治療、障害予防における科学的基盤を確立するための研究に取り組む能力
・健康や障害に及ぼす生活環境要因を具体化し、 その因果関係の仕組みを探究して、説明できる能力

3.汎用的能力の修得
・様々な状況において高度なコミュニケーション、プレゼンテーションの出来る能力
・保健医療の現状改善を図る実践能力を持って、地域の保健医療に貢献できる高度専門職としての役割を担い、リーダーシップを発揮できる能力

5. 教育方法と指導体制

大学院の教育は，授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行われます。学生は，入学志願書に記載された希望に基づき，入学時に主指導教員１名，副指導教員１名が指定されます。学生は，入学から修了までの間，これら指導教員（主指導教員及び副指導教員）との相談・指導により学修を進めて行くことになります。

Ⅱ．教育カリキュラムについて

1. 修了要件

保健学専攻博士前期課程の修了要件は当課程に 2 年以上在学し，専攻の定める科目から 30 単位以上を修得することです。このうち特別研究については必要な研究指導を受けたう

え，学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。学位論文については「弘前大学学位規程」を参照してください。

放射線看護高度看護実践コースについては，コースが定める科目から 42 単位以上を修得し，このうち課題研究については必要な研究指導を受けたうえ，課題研究論文審査及び最終試験に合格することが必要です。課題研究の提出及び審査については「弘前大学学位規則」に準じます。

2. 授業科目と履修方法

1) 授業科目について

授業科目は，保健学共通コア科目と各領域の専門科目から構成されます。保健学研究科規程別表は 13～17 ページ(別表第 1-1～1-3)に示されていますので，参照してください。

2) 履修方法について

学生は，次に示す所定の単位を修得するとともに，学位論文の審査及び最終試験に合格することにより，「修士（保健学)」または「修士（看護学)」の学位を取得できます。

放射線看護高度看護実践コースについては，課題研究論文の審査及び最終試験に合格することにより，「修士（看護学)」の学位を取得できます。

- 保健学共通コア科目から 8 単位以上（必修科目 2 単位，選択科目 6 単位以上）
- 所属領域の専門科目から 20 単位以上（必修科目 14 単位，選択科目 6 単位以上）
- 保健学共通コア科目の選択科目，所属領域の専門科目の選択科目，大学院共通科目から 2 単位以上（自由科目 2 単位以上）

  ※看護学領域は，選択科目及び自由科目の所要単位に，別表 1-3 に定める放射線看護高度看護実践コースの共通科目のうち◎を付した科目の単位を含めることができる。

✧ 合計 30 単位以上

＜被ばく医療コース＞

- 保健学共通コア科目から 2 単位（必修科目 2 単位）
- 所属領域の専門科目から 16 単位以上（必修科目 14 単位，選択科目 2 単位以上）
- 被ばく医療共通科目から 6 単位（必修科目 6 単位）
- 被ばく医療専門科目から 4 単位以上（選択科目 4 単位以上）
- 保健学共通コア科目の選択科目，所属領域の専門科目の選択科目，大学院共通科目から 2 単位以上（自由科目 2 単位以上）

✧ 合計 30 単位以上

✧ 修士論文テーマは，放射線に関連したもの

＜放射線看護高度看護実践コース＞

- 共通科目から 14 単位以上（必修科目 12 単位，選択科目 2 単位以上）
- 専門科目から 28 単位以上（必修科目 26 単位，選択科目 2 単位以上）
- ➢ 合計 42 単位以上

【1 単位の修得に要する授業時間】

講義・演習：15～30 時間

実技・実習：30～45 時間

※「授業時間」については，本学では 1 回の授業時間（90 分）を 2 時間とみなしています。

3) 履修モデルについて

履修科目を決める際の参考例として，各領域の履修モデルは下記のとおりです。

（長期履修制度を利用した履修方法については，指導教員に相談してください。）

① 看護学領域での履修例１　18 ページ
② 看護学領域での履修例２　19 ページ
③ 放射線技術科学領域での履修例１　20 ページ
④ 放射線技術科学領域での履修例２　21 ページ
⑤ 生体検査科学領域での履修例１　22 ページ
⑥ 生体検査科学領域での履修例２　23 ページ
⑦ 総合リハビリテーション科学領域での履修例１　24 ページ
⑧ 総合リハビリテーション科学領域での履修例２　25 ページ
⑨ 被ばく医療コース（看護学領域）での履修例　26 ページ
⑩ 被ばく医療コース（放射線技術科学領域）での履修例　27 ページ
⑪ 被ばく医療コース（生体検査科学領域）での履修例　28 ページ
⑫ 被ばく医療コース（総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学領域）での履修例　29 ページ
⑬ 放射線看護高度看護実践コース〈被ばく医療における看護支援〉選択者の履修例　30 ページ
⑭ 放射線看護高度看護実践コース〈医用放射線利用に伴う看護支援〉選択者の履修例　31 ページ

3. 指導教員

学生の研究指導のため，学生ごとに指導教員をおきます。

指導教員は学位論文の作成，授業科目の学修・履修，休学，退学，その他在学中の学生生活等に係る指導・助言を担当します。

4. 開講の形態と授業方法

- 授業は原則として月曜から金曜の昼間に開講しますが，社会人学生の履修の便宜を図るため，大学院設置基準 14 条特例の適用により，夜間や特定の時間帯に授業や研究指導を実施しています。
- 社会人学生は夜間や特定の時間帯に開講される授業科目を履修することができます。
- 特例措置の適用を受ける社会人学生であっても，昼間に開講される授業科目を履修することができます。
- また，社会人以外の学生も，担当教員の許可により，夜間や特定の時間帯に開講される授業科目を履修することができます。
- ただし，学期初めの履修科目登録状況により，昼夜いずれかの時間帯に整理される場合がありますので，注意してください。
- 遠隔地に居住しているなどの理由により弘前大学本町キャンパスに来られない学生等を対象として，Microsoft Teams を利用した双方向通信方式による遠隔授業を実施しています。
  ただし，授業科目によっては遠隔授業を実施できない場合もありますので，注意してください。

5. 履修登録について

履修を開始するにあたり，学生は指導教員の指導の下，履修しようとする授業科目を登録する必要があります。履修登録を行わないまま授業を受けても，単位を修得することはできませんので注意してください。

1) 履修登録手続き

- 指導教員の指導に基づいて，時間割及び「履修の手引き」に掲載されている修了要件，履修表，履修モデル等を参照し，履修を希望する科目を選んでください。
- 授業担当教員へ，履修について許可を得てください。（都合により，開講曜日・開講時間の変更や，閉講する場合があります）
- 許可を得た後，定められた期間内に履修登録をしてください。履修登録変更期間を過ぎてからの追加・取りやめは，原則として認められません。
- 履修登録は，「CAMPUS SQUARE」より WEB 上で行います。詳細については，大学院保健学研究科 HP 内「大学院生向け資料」の「CAMPUS SQUARE 操作マニュアル」を確認してください。
- 後期分については，後期授業開始前までに学務グループより連絡します。

令和８年度前期

・履修登録期間※新入生ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ終了後：4 月 7 日（火）～4 月 10 日（金）17：00

・履修登録変更（追加）期間：4 月 13 日（金）～4 月 24 日（金）17：00

・履修取りやめ期間：4 月 27 日（月）～5 月 1 日（金）17：00

・大学院保健学研究科 HP
https://ghs.hirosaki-u.ac.jp/

・「CAMPASU SQUARE」WEB サイト
https://gakujoweb.hirosaki-u.ac.jp/campusweb/

6. 成績評価・単位認定

◆ 成績評価基準

- 授業科目の単位認定は，筆記（口述）試験もしくはレポートにより行います。
- 試験は授業科目担当教員により必要に応じて適宜実施されます。
- 各授業科目の成績は，秀・優・良・可・不可の５種とし，秀・優・良・可を合格とします。

評 価	秀	優	良	可	不可
評 点	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下

◆ 履修成績に対する異議申立て

- 授業科目の履修成績に異議等があるときは，成績通知開始日を含めて2週間以内に，保健学研究科学務グループに「授業科目の履修成績に対する質問書」（様式任意）を提出してください。学務グループから授業科目を担当した教員（以下「担当教員」という。）に確認します。
- 担当教員に確認した授業科目の履修成績に関する質問書についての説明を受けても，なお異議があるときは，研究科長に対して，「授業科目の履修成績に対する異議申立書」を提出することができます。
- 研究科長は，必要に応じて，学事委員会に調査を命じます。
- 学事委員会は，学生及び担当教員から意見を聴取するなどして調査を行い，その調査結果を，研究科長に報告します。
- 研究科長は，担当教員に対して，授業科目の履修成績に対する異議申立てへの回答内容を報告します。
- 研究科長は，学事委員会における調査結果を踏まえ，学生に対して，授業科目の履修成績に対する異議申立てへの回答を行います。

7. 学位論文審査基準

学位論文は，以下の審査基準により評価を行います。

1．学位審査論文において，研究テーマにかかわる研究を系統的，かつ過不足なく記述出来ていること。

2．学位審査論文に，当該専門分野における新たな知見や観点が何らかの形（研究方法，研究結果等）で含まれていること。

3．申請者が研究内容の意義，結果について十分に理解していることを，学位審査論文及び学位審査会において的確に示していること。

※放射線看護高度看護実践コースの課題研究論文の審査基準は，上記に準じます。

8. その他

授業，その他学生に対する連絡は，CAMPASU SQUARE 掲示板もしくは E-mail 等により行います。特に弘大メールアドレス（～@hirosaki-u.ac.jp）への連絡は，見落としがないよう注意してください。

Ⅲ．令和８年度保健学研究科学年暦

◆ 別紙「授業日程」と「授業計画（行事予定）」を参照してください。

Ⅳ．研究の進め方について

弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程）における研究の教育指導は，入学時に指定された主指導教員及び副指導教員（領域による）が担当し，主として所属領域の「基礎特論」「演習」「特別研究」において展開されます。

したがって，履修表の上では１年次後期からのスタートとなりますが，各指導教員の方針により，１年前期から開始される場合もあります。

（※下記「2．注意事項」より）入学時から指導教員とよく相談し，早めに研究の方向性を確認することが大切です。

1. 研究活動のマイルストーン

1年次前期

◇ 指導教員と研究の方向性の確認
◇ 研究課題（第1次案－仮テーマ）の決定
◇ 大まかな研究計画の立案

1年次後期

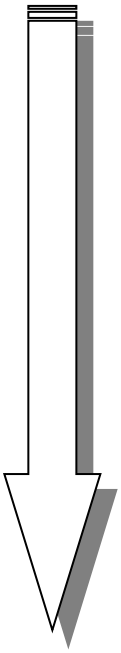
◇ 研究準備開始
　◀ 文献探索・収集・批評
　◀ バックグラウンド理解
　◀ 研究課題の絞込み
◇ 研究課題（第2次案－本テーマ）の決定

2年次前期

◇ 研究計画書の提出
◇ 研究スタート
　◀ データ収集・解析
　◀ 解釈・検討
　◀ 成果評価・要約

2年次後期

◇ 修士論文提出　　（1月上旬）
◇ 研究発表会　　（2月中旬）
◇ 修士論文審査・最終試験



Ⅴ．各コースの紹介

1. 被ばく医療コースについて

被ばく医療コースの人材育成の目的，到達目標は以下のとおりです。なお，被ばく医療コースを修了した者のうち，称号付与に係る申請をされた方には，審査の後，被ばく医療認定士の称号が付与されます。また，被ばく医療コースには，定員や人数制限等の定めはありません。ただし，被ばく医療認定士の修士論文テーマは，放射線に関連したものとなります。

＜教育目的＞

放射線にかかわる緊急被ばく事故に備えることができる人材として，緊急被ばく医療に関する高度専門職やリーダーを養成するとともに本分野の学問の発展に貢献できる教育者・研究者を育成する。

＜到達目標＞

① 緊急被ばく医療に関する専門的知識・技術を習得する。
② 緊急被ばく医療分野において求められるリーダーシップ能力を習得する。
③ 緊急被ばく医療に関する教育・研究的能力を習得する。

2. 放射線看護高度看護実践コースについて

放射線看護高度看護実践コースの教育理念・教育目的・教育目標は以下のとおりです。なお，所定の単位を修得するとともに，課題研究論文審査及び最終試験に合格することにより「放射線看護高度実践看護師」の称号が付与されます。

＜教育理念＞

本コースは，豊かな知識と熟練した技術を駆使して，対象者の健康問題を診断し，高度な看護実践を行うことができる人材を育成する。さらに，健康問題の解決に向けた，個人や家族，地域社会ならびに医療職者に対する教育・相談活動の実施，他の医療従事者や地域社会の人々，公的機関等と連携・協働することができる能力を培う。また，学際的・国際的な広い視野と専門家としての倫理的配慮の下で看護実践，教育・研究に指導的な役割を果たすことができる人材を育成する。

＜教育目的＞

放射線被ばくや放射線防護に関する高度な専門知識・技術を基盤とし，施設や地域における個人や集団の放射線被ばく防護対策に従事すると共に，放射線被ばくに関連した複雑な健康問題を持つ個人，家族および集団に対して高度看護実践を行うことのできる人材の育成を目指す。

＜教育目標＞

① 放射線被ばくや放射線防護に関する高度な専門知識・技術を活用し，顕在あるいは潜在した放射線の人体影響を有する対象への高度看護実践を行うことができる。

② 放射線被ばくを最小限にするための的確な臨床判断と管理を行うことができる。

③ 個人や集団が放射線に関する正しい知識を有し，自らの健康を守るための判断と行動ができるように教育・啓発活動及び相談活動ができる。

④ 看護職者に対して，放射線看護に必要な知識及び技術に関する教育・相談活動ができる。

⑤ 放射線看護に必要な教育・医療システムの調整を行うことができる。

⑥ 放射線看護に関する倫理的課題に対し的確な判断を行い，解決に向けて支援を行うことができる。

⑦ 放射線看護に関する専門的知識や技術の向上に資する看護研究を行うことができる。

Ⅵ．教育職員免許状の取得について

高等学校教諭一種免許状（看護）をすでに取得していて，弘前大学大学院において高等学校教諭専修免許状（看護）を取得しようとする者は，下表の授業科目から必修及び選択科目を合わせて，計 24 単位以上を修得しなければなりません。

免許法施行規則で規定されている高専免（看護）取得に必要な科目及び最低修得単位数

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する授業科目・単位数			備　　考
		授業科目名	単位数		
科目	単位数		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	２４	Global Health Communication and Practice		2	＜免許状取得に必要な最低修得単位数＞ ２４単位
		保健学連携セミナー		2	
		看護教育学特論		2	
		看護倫理学特論		2	
		看護管理学特論		2	
		生涯発達看護学特論		2	
		地域ケア学特論		2	
		看護学基礎特論	2		
		看護学特別演習	2		
		生活環境疫学特論		2	
		臨床理学療法学研究特論		2	
		放射線防護総論		2	
		被ばく医療総論		2	
		被ばく医療看護学特論		2	
		看護政策論		1	
		看護理論		2	
		看護研究方法論		2	
		コンサルテーション論		2	
		フィジカルアセスメント		2	
		病態生理学		2	
		臨床薬理学		2	
		放射線学基礎特論		2	
		被ばく医療学特論		2	
		放射線医学特論		2	
		放射線看護学特論		2	

資料１　保健学研究科規程別表

別表第１－１　博士前期課程の授業科目，単位数及び年次別配当（第９条第２項関係）

【共通科目】

科目区分	授業科目	単位数		１年次		２年次		合計単位	備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期		
保健学共通コア科目	Global Health Communication And Practice		2		2			2	履修方法 (1)必修科目　16単位 ・保健学共通コア科目の必修科目2単位 ・学生が所属する領域（以下「所属領域」という。）の専門科目の必修科目14単位 (2)選択科目　12単位以上　※ ・保健学共通コア科目の選択科目から6単位以上 ・所属領域の専門科目の選択科目から6単位以上
	保健学連携セミナー		2	2				2	
	保健学研究セミナー１	1			1			1	
	保健学研究セミナー２	1				1		1	
	アカデミック・ライティング		2		2			2	
	研究方法論（基礎研究）		2	2				2	
	研究方法論（臨床研究）		2	2				2	
	教育学特論		2	2				2	
	研究データ解析学		2	2				2	
	合計	2	14	10	5	1		16	

【専門科目】

領域	授業科目	単位数		１年次		２年次		合計単位
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
看護学領域	看護教育学特論		2	2				2
	看護倫理学特論		2	2				2
	看護管理学特論		2		2			2
	生涯発達看護学特論		2	2				2
	地域ケア学特論		2		2			2
	看護学基礎特論	2		2				2

領域	授業科目	単位数		1年次		2年次		合計単位
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
看護学領域	看護学特別演習	2			2			2
	看護学特別研究	10				10		10
	合計	14	10	8	6	10		24
放射線技術科学領域	放射薬品学特論		2		2			2
	分子放射線生物学特論		2	2				2
	放射線治療技術学特論		2	2				2
	トレーサー情報解析学特論		2	2				2
	画像診断技術学特論		2		2			2
	放射線安全管理学特論		2	2				2
	医用放射線機器工学特論		2	2				2
	医用加速器工学特論		2	2				2
	人体形態学特論		2	2				2
	応用放射線計測学		2	2				2
	放射線技術科学基礎特論	2		2				2
	放射線技術科学特別演習	2			2			2
	放射線技術科学特別研究	10				10		10
	合計	14	20	20	4	10		34
生体検査科学領域	細胞生理学特論		2	2				2
	分子生化学		2	2				2
	細胞生物化学		2		2			2
	生体代謝機能科学		2	2				2
	病態医化学		2		2			2
	機能酵素化学		2		2			2
	腫瘍細胞学特論		2		2			2
	臨床血液学特論		2		2			2
	感染防御免疫学特論		2		2			2
	生活環境疫学特論		2	2				2

(3)自由科目　2単位以上　※

・保健学共通コア科目の選択科目，所属領域の専門科目の選択科目，大学院共通科目から2単位以上

合計30単位以上修得すること。

※看護学領域については，(2)選択科目12単位のうち，所属領域の専門科目からの所要単位6単位と，(3)自由科目の所要単位2単位に，別表第1-3に定める放射線看護高度看護実践コースの共通科目のうち◎を付した科目の単位を含めることができる。

領域	授業科目	単位数		1年次		2年次		合計単位	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期		
生体検査科学領域	医用・保健機器特論		2	2				2	
	生体検査科学基礎特論	2		2				2	
	生体検査科学特別演習	2			2			2	
	生体検査科学特別研究	10				10		10	
	合計	14	22	18	8	10		36	
総合リハビリテーション科学領域	運動療法学特論		2		2			2	
	臨床理学療法学特論		2	2				2	
	リハビリテーション医学特論		2		2			2	
	臨床理学療法学研究特論		2	2				2	
	身体障害作業療法学特論		2		2			2	
	ライフステージ作業療法学特論		2		2			2	
	精神障害作業療法学特論		2		2			2	
	神経科学特論		2		2			2	
	リハビリテーション教育学特論		2	2				2	
	リハビリテーション教育学特論演習		2		2			2	
	リハビリテーション科学基礎特論	2		2				2	
	リハビリテーション科学特別演習	2			2			2	
	リハビリテーション科学特別研究	10				10		10	
	合計	14	22	12	14	10		36	

別表第１－２　被ばく医療コースの履修指定科目，単位数及び年次別配当

区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	１年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	合計単位	備考
被ばく医療コース	被ばく医療共通科目	放射線防護総論	2		2				2	履修方法 (1) 必修科目　22単位 ・（別表第1-1）保健学共通コア科目の必修科目2単位 ・（別表第1-1）所属領域の専門科目の必修科目14単位 ・（別表第1-2）被ばく医療共通科目の必修科目6単位 (2) 選択科目　6単位以上 ・（別表第1-1）所属領域の専門科目の選択科目から2単位以上 ・（別表第1-2）被ばく医療専門科目の選択科目から4単位以上 (3) 自由科目　2単位以上 ・保健学共通コア科目の選択科目，所属領域の専門科目の選択科目，大学院共通科目から2単位以上 合計30単位以上修得すること。
		被ばく医療総論	2		2				2	
		被ばく医療演習	2			2			2	
	被ばく医療専門科目	被ばく医療看護学特論		2		2			2	
		放射薬品学特論＊		2		2			2	
		放射線治療技術学特論＊		2	2				2	
		放射線影響学特論		2		2			2	
		放射線安全管理学特論＊		2	2				2	
		染色体検査学		2		2			2	
		特殊検査機器学		2		2			2	
		染色体解析演習		2		2			2	
		バイオアッセイ演習		2		2			2	
		特殊検査機器演習		2		2			2	
		放射線臨床検査学		2		2			2	
		被ばく医療ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学特論		2		2			2	
		合計	6	24	8	22			30	

＊印の科目は別表第１－１から被ばく医療指定科目として再掲

別表第１－３　放射線看護高度看護実践コースの履修指定科目，単位数及び年次別配当

区分		授業科目	単位数		１年次		２年次		合計単位	備考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期		
放射線看護高度看護実践コース	共通科目	看護教育学特論		2	2				2	履修方法 (1) 必修科目　38単位 ・共通科目の必修科目12単位 ・専門科目の必修科目26単位 (2) 選択科目　4単位以上 ・共通科目の選択科目から2単位以上 ・専門科目の選択科目から2単位以上 合計42単位以上修得すること。
		看護管理学特論		2		2			2	
		看護政策論◎		1		1			1	
		看護理論◎	2			2			2	
		看護研究方法論◎		2	2				2	
		コンサルテーション論◎	2			2			2	
		看護倫理学特論	2		2				2	
		フィジカルアセスメント◎	2		2				2	
		病態生理学◎	2			2			2	
		臨床薬理学◎	2			2			2	
	専門科目	基礎放射線学特論	2		2				2	
		被ばく医療学特論	2		2				2	
		放射線医学特論	2		2				2	
		放射線看護学特論	2		2				2	
		放射線看護学特別演習	2		2				2	
		被ばく医療看護論	2		2				2	
		被ばく医療看護方法論		2		2			2	
		医用放射線看護方法論		2		2			2	
		放射線看護学実習Ⅰ	2		2				2	
		放射線看護学実習Ⅱ	3		3				3	
		放射線看護学実習Ⅲ	5				5		5	
		放射線看護学課題研究	4				4		4	
		合計	38	11	40		9		49	

資料２　弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程）履修モデル

履修例１

看護学領域

看護学領域での履修例１

１．対象学生

当領域に進学を希望する看護系大学の卒業者

２．目標進路

課程修了後，看護師として臨床経験を積んだ後，看護教員に従事することを目標としている。

３．修士論文テーマ

『看護教員の臨地実習におけるコミュニケーション・スキルに影響を及ぼす要因に関する研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	１年次		２年次		合計
コア科目 保健学共通	保健学研究セミナー1	1	7		1	8
	保健学研究セミナー2			1		
	研究方法論（臨床研究）	2				
	教育学特論	2				
	研究データ解析学	2				
必修科目	看護学基礎特論	2	4		10	14
	看護学特別演習	2				
	看護学特別研究			10		
選択科目	看護管理学特論	2	6		2	8
	看護倫理学特論	2				
	看護理論	2				
自由	アカデミック・ライティング	2	2			2
計		17		13		30

５．履修内容の説明

看護系大学卒業者で，将来，看護師として臨床経験を積んだ後，看護教員として従事することを希望する学生が選択する履修例を示している。

修士論文では，看護教員の臨地実習におけるコミュニケーション・スキルに影響を及ぼす要因について，文献検索を行い，量的研究の手法を習得しながら，看護系大学に勤務する教員を対象として，分析・研究を進める。そのためには，保健学共通コア科目の必修科目２単位を含む，８単位を履修する。専門科目においては，必修科目として看護学基礎特論，看護学特別演習，看護学特別研究，計１４単位を履修し，選択科目として看護管理学特論，看護倫理学特論，看護理論，計６単位を履修する。自由科目として，アカデミック・ライティング２単位を選択し，総計３０単位を履修する。

履修例２

看護学領域

看護学領域での履修例２

１．対象学生

当領域に進学を希望する看護系大学の卒業者

２．目標進路

課程修了後，医療機関で高度医療を担う看護師として従事することを目標としている。

３．修士論文テーマ：

『高次脳機能障害を有した高校生・大学生の生活世界に関する研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	１年次		２年次		合計
コア科目 保健学共通	保健学研究セミナー1	1	7		1	8
	保健学研究セミナー2			1		
	保健学連携セミナー	2				
	研究方法論（臨床研究）	2				
	アカデミック・ライティング	2				
必修科目	看護学基礎特論	2	4		10	14
	看護学特別演習	2				
	看護学特別研究			10		
選択科目	地域ケア学特論	2	6		0	6
	看護管理学特論	2				
	看護倫理学特論	2				
自由	フィジカルアセスメント	2	2			2
計		19		11		30

５．履修内容の説明

看護系大学の卒業者で，将来，医療機関で高度医療を担う看護師として従事することを希望する学生が選択する履修例を示している。

修士論文では，高次脳機能障害を有した高校生・大学生の生活世界に焦点を当て，どのように自分自身や社会との関わりを認識しているのか，語りから質的記述的に分析・解釈して，生活世界を明らかにすることを目的とした研究を進める。そのためには，保健学共通コア科目の必修科目２単位を含む，８単位を履修する。専門科目においては，必修科目として看護学基礎特論，看護学特別演習，看護学特別研究，計１４単位を履修し，選択科目として地域ケア学特論，看護管理学特論，看護倫理学特論，計６単位を履修する。自由科目として，フィジカルアセスメント２単位を選択し，総計３０単位を履修する。

履修例３

放射線技術科学領域

放射線技術科学領域での履修例１

１．対象学生

保健学系大学の卒業者

２．目標進路

大学の附属病院等の医療機関，医療機器の研究･開発機関において研究，開発に従事することを目標としている。

３．修士論文テーマ：

『重荷電粒子による放射線治療に関する研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	１年次		２年次		合計
保健学共通コア科目	医療マネジメント	2	6		2	8
	国際保健医療学	2				
	保健学連携セミナー	2				
	保健学研究セミナー	2				
必修科目	放射線技術科学基礎特論	2	4		10	14
	放射線技術科学特別演習	2				
	放射線技術科学特別研究			10		
選択科目	放射線治療技術学特論	2	6		2	8
	応用放射線計測学	2				
	放射薬品学特論	2				
	放射線安全管理学特論			2		
計		16		14		30

５．履修内容の説明

保健学科系の卒業者を対象とする。大学の付属病院等の医療機関，医療機器の研究･開発機関において，研究，開発を目指す者が選択する履修例である。

修士論文では，陽子以上の重い核種を用いた放射線治療において重荷電粒子が各種腫瘍に及ぼす影響を細胞レベルまで掘り下げ理解したうえで，各種画像情報より治療の計画及び実践を行える研究を行う。

そのためには，保健学共通コア科目の４科目８単位を履修する。必修科目として，放射線技術科学基礎特論２単位，放射線技術科学特別演習２単位と放射線技術科学特別研究１０単位，計１４単位を履修する。さらに，関連する選択科目として，放射線治療技術学特論２単位，画像診断技術学特論２単位，放射薬品学特論２単位，放射線安全管理学特論２単位，計４科目８単位を履修し，総計３０単位を履修する。

履修例４

放射線技術科学領域

放射線技術科学領域での履修例２

１．対象学生

診療放射線技師の資格を有し，保健医療施設に勤務している現職者

２．目標進路

現職場への復帰や大学の附属病院等の医療機関，医療機器の研究･開発機関において，研究，開発を目指すことを目標としている。

３．修士論文テーマ：

『重荷電粒子による放射線治療に関する研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	１年次		２年次		合計
保健学共通コア科目	医療マネジメント	2	6		2	8
	国際保健医療学	2				
	保健学連携セミナー	2				
	保健学研究セミナー	2				
必修科目	放射線技術科学基礎特論	2	4		10	14
	放射線技術科学特別演習	2				
	放射線技術科学特別研究			10		
選択科目	トレーサー情報解析学特論	2	6		2	8
	画像診断技術学特論	2				
	放射薬品学特論	2				
	放射線安全管理学特論			2		
計		16		14		30

５．履修内容の説明

現職者(社会人)のスキルアップを対象とする。従って，現職場への復帰や大学の付属病院等の医療機関，医療機器の研究･開発機関において，研究，開発を目指す者が選択する履修例を示している。

修士論文では，陽子以上の重い核種を用いた放射線治療において重荷電粒子が各種腫瘍に及ぼす影響を細胞レベルまで掘り下げ理解したうえで，各種画像情報より治療の計画及び実践を行える研究を行う。

そのためには，保健学共通コア科目の4科目計８単位を履修する。所属分野の必修科目として放射線技術科学基礎特論２単位，放射線技術科学特別演習２単位，放射線技術科学特別研究１０単位，計１４単位を履修する。さらに，関連する選択科目として，トレーサー解析学特論２単位，画像診断技術学特論２単位，放射薬品学特論２単位，放射線安全管理学特論２単位，計４科目８単位を履修する，総計30単位を履修する。

履修例５

生体検査科学領域

生体検査科学領域での履修例１

１．対象学生

当該領域に進学を希望する保健学系大学卒業者

２．目標進路

課程修了後，医療機関で高度医療を担う臨床検査技師の職に従事することを目標としている。

３．修士論文テーマ：

『膵内分泌と膵外分泌の機能的連携に関する研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	１年次		２年次		合計
保健学共通コア科目	研究方法論（基礎研究）	2	6		2	8
	アカデミックライティング	2				
	Grobal Global Health Communication and Practice	2				
	保健学研究セミナー	2				
必修科目	生体検査科学基礎特論	2	4		10	14
	生体検査科学特別演習	2				
	生体検査科学特別研究			10		
選択科目	細胞生理学特論	2	6		2	8
	神経科学特論	2				
	病態医化学	2				
	臨床血液学特論			2		
計		16		14		30

５．履修内容の説明

臨床検査技師の資格を有し，将来，臨床・教育・研究に関わることを希望する学生が選択する履修例である。

修士論文では，膵腺房細胞に多量に存在するホルモン等の刺激による膵β細胞の反応性実験から，膵外分泌機能が直接膵内分泌腺のインスリン分泌に影響するのか，その連携機構をテーマとする。

この例では，将来，高度医療専門職に就くことを考慮し，保健学共通コア科目の４科目８単位を履修する。また，選択科目には基礎知識と専門知識及び技術を合わせて履修できる細胞生理学特論，神経科学特論，病態医化学，臨床血液学特論の４科目８単位を選択している。必修科目においては生体検査科学基礎特論，生体検査科学特別演習，生体検査科学特別研究の３科目１４単位を履修する。

履修例６

生体検査科学領域

生体検査科学領域での履修例２

１．対象学生

臨床検査技師の資格を有し，保健及び医療施設に勤務している現職者

２．目標進路

臨床検査領域の管理的な業務において，指導的役割を果たすことを目標としている。

３．修士論文テーマ：

『生体防御における神経系の関与に関する研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	１年次		２年次		合計
保健学共通コア科目	研究方法論（臨床研究）	2	6		2	8
	研究データ解析学	2				
	保健学連携セミナー	2				
	保健学研究セミナー	2				
必修科目	生体検査科学基礎特論	2	4		10	14
	生体検査科学特別演習	2				
	生体検査科学特別研究			10		
選択科目	感染防御免疫学特論	2	6		2	8
	腫瘍細胞学特論	2				
	臨床血液学特論	2				
	細胞生物化学			2		
計		16		14		30

５．履修内容の説明

将来，病態解析科学分野の中でも特に生体防御の分野において，研究，教育を目指す学生が選択する履修例である。

ここに示した修士論文では，腫瘍，感染などの疾病と，ストレス及び神経系とのクロストークについて，生体防御機構を基盤にして解析を進めるものである。

この例では，学生が実験研究を計画したため，基礎知識と専門知識及び技術を合わせて履修できる科目が選択されている。具体的には，保健学共通コア科目の４科目８単位を履修するとともに，選択科目として所属領域から感染防御免疫学特論，臨床血液学特論，腫瘍細胞学特論，細胞生物化学を選択し４科目８単位を履修する。必修科目においては生体検査科学基礎特論，生体検査科学特別演習，生体検査科学特別研究の３科目１４単位を履修する。

履修例７

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域での履修例１

１．対象学生

当分野に進学を希望する保健学科理学療法学専攻の卒業者

２．目標進路

博士課程への進学を視野に入れ，将来，教育者あるいは研究者としての業務に就くことを目標としている。

３．修士論文テーマ：

『呼吸・循環機能と筋肉及び関節機能への影響に関する研究』

４．履修科目

区分		授　業　科　目	１年次		２年次		合計
コア科目	保健学共通	アカデミックライティング		5	2	3	8
		教育学特論	2				
		研究データ解析学	2				
		保健学研究セミナー	1		1		
必修科目		リハビリテーション科学基礎特論	2	4		10	14
		リハビリテーション科学特別演習	2				
		リハビリテーション科学特別研究			10		
選択科目		リハビリテーション教育学特論演習	2	6		2	8
		リハビリテーション医学特論	2				
		臨床理学療法学特論	2				
		臨床理学療法学研究特論			2		
計			16		14		30

５．履修内容の説明

保健学系大学の理学療法学専攻卒業者で，将来，大学をはじめとする教育機関において教育・研究に携わることを希望する学生が選択する履修例を示している。
修士論文では，健康の増進や治療として行われる運動に着目し，特に呼吸・循環機能と筋肉及び関節機能への影響について解明することを目的とした研究を進める。

そのためには，保健学共通コア科目の７科目８単位を履修するとともに，選択科目としてリハビリテーション教育学特論演習，リハビリテーション医学特論，臨床理学療法学特論，臨床理学療法学研究特論の４科目を選択し８単位を履修する。必修科目においてはリハビリテーション科学基礎特論，リハビリテーション科学特別演習，リハビリテーション科学特別研究の３科目１４単位を履修し，総計３０単位を履修する。

なお，教育学特論（共通コア科目）およびリハビリテーション教育学特論演習（専門選択科目）の４単位は，理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定められている，専任教員の要件として認められるための教育学に関連する４単位に該当する（２０１８年改正，２０２０年４月１日施行）。

履修例８

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域での履修例２

１．対象学生

作業療法士の資格を有し，保健医療施設に勤務している現職者

２．目標進路

職場復帰後，修得した知識と技術を発揮させ管理的役割を果たすことを目標としており，また，将来，大学等において教育者としての業務に就くことを視野に入れている。

３．修士論文テーマ：

『高齢障害者の日常生活動作の指導法に関する研究』

４．履修科目

区分	授業科目	１年次		２年次		合計
保健学共通コア科目	保健学研究セミナー1	1	7（9）		1	8（10）
	保健学研究セミナー2			1		
	基礎教育学	2				
	基礎統計学	2				
	アカデミックライティング	2				
	自由選択　研究方法論（臨床）	(2)				
必修科目	リハビリテーション科学基礎特論	2	4		10	14
	リハビリテーション科学特別演習	2				
	リハビリテーション科学特別研究			10		
選択科目	リハビリテーション教育学特論演習	2	4		4	8
	リハビリテーション医学特論			2		
	神経科学特論	2				
	身体障害作業療法学特論			2		
計		16		14		30

５．履修内容の説明

作業療法士の資格を有し，保健医療施設で働く現職者が，修了後は職場復帰し，管理者として指導的役割を果たすこと，また，将来，教育者としての業務に就くことを目標として選択する履修例を示している。

修士論文では，高齢者の日常生活動作の指導法を明らかにするために，これまでの明らかにされている指導法と動作解析法に関する文献的検討を行うと共に，問題点を認識し，その解決法について研究を進める。

そのためには，保健学共通コア科目の４科目８単位を履修するとともに，選択科目としてリハビリテーション教育学特論演習，リハビリテーション医学特論，神経科学特論，身体障害作業療法学特論の４科目を選択し８単位を履修する。必修科目においてはリハビリテーション科学基礎特論，リハビリテーション科学特別演習，リハビリテーション科学特別研究の３科目１４単位を履修し，総計３０単位を履修する。

なお，基礎教育学およびリハビリテーション教育学特論演習の４単位は，理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定められている，専任教員の要件として認められるための教育学に関連する４単位に該当する（２０１８年改正，２０２０年４月１日施行)。

履修例９

＜被ばく医療コース＞　看護学領域

看護学領域での履修例

１．対象学生

看護系大学を卒業し，5 年間看護職として従事している者で，当コースに進学を希望する者

２．目標進路

課程修了後，放射線看護の専門的知識・技術を発揮できる分野で保健師として従事することを目標としている。

３．修士論文テーマ：

『放射線事故発生時における地域住民の健康問題に関する研究』

４．履修科目

<table>
<tr><th>区分</th><th>授　業　科　目</th><th colspan="2">１年次</th><th colspan="2">２年次</th><th>合計</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="4">共通科目</td><td>放射線防護総論</td><td>2</td><td rowspan="3">6</td><td></td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="4">４科目
８単位</td></tr>
<tr><td>被ばく医療総論</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>被ばく医療演習</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>保健学研究セミナー</td><td colspan="2">2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td>看護学基礎特論</td><td>2</td><td rowspan="3">4</td><td></td><td rowspan="3">10</td><td rowspan="3">14</td><td rowspan="3">修士論文</td></tr>
<tr><td>看護学特別演習</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>看護学特別研究</td><td></td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択科目</td><td>被ばく医療看護学特論</td><td>2</td><td rowspan="4">8</td><td></td><td rowspan="4"></td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="4">４科目
８単位以上を選択</td></tr>
<tr><td>被ばく医療リハビリテーション科学特論</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>看護管理学特論</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>地域ケア学特論</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td colspan="2">18</td><td colspan="2">12</td><td>30</td><td></td></tr>
</table>

５．履修内容の説明

保健学系大学の看護学専攻卒業者で，将来，保健師として，放射線看護の専門的知識・技術が求められる分野に従事することを希望する学生が選択する履修例を示している。

修士論文では，放射線事故に伴う地域住民の健康問題に関する研究をテーマに，身体健康問題だけでなく，心理的・社会的側面から明らかにすることを目的とした研究を進める。

そのためには，保健学共通科目の必修 1 科目 2 単位を履修するとともに，放射線防護総論，被ばく医療総論，被ばく医療演習の 3 科目計 6 単位を履修する。必修科目においては看護学基礎特論，看護学特別演習，看護学特別研究の 3 科目 14 単位を履修する。選択科目として被ばく医療看護学特論，被ばく医療リハビリテーション科学特論，看護管理学特論，地域ケア学特論の 4 科目 8 単位を履修し，総計 30 単位を履修する。

履修例 10

＜被ばく医療コース＞　放射線技術科学領域

放射線技術科学領域での履修例

１．対象学生

診療放射線技師の資格を有し，保健医療施設に勤務している現職者

２．目標進路

現職場で診療に従事しながら研究を目指すと共に，被ばく医療受け入れにおける現場スタッフとしても業務に従事でき，かつ他のスタッフに対して指導的役割を担える人材を目標としている。

３．修士論文テーマ：

『緊急被ばく医療において期待される診療放射線技師の役割：原子力施設を対象とした意識調査』

４．履修科目

<table>
<tr><th>区分</th><th>授　業　科　目</th><th colspan="2">１年次</th><th colspan="2">２年次</th><th>合計</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="4">共通科目</td><td>放射線防護総論</td><td>2</td><td rowspan="3">6</td><td></td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="4">４科目
８単位</td></tr>
<tr><td>被ばく医療総論</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>被ばく医療演習</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>保健学研究セミナー</td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td>放射線技術科学基礎特論</td><td>2</td><td rowspan="3">4</td><td></td><td rowspan="3">10</td><td rowspan="3">14</td><td rowspan="3">修士論文</td></tr>
<tr><td>放射線技術科学特別演習</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>放射線技術科学特別研究</td><td></td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択科目</td><td>放射線治療技術学特論</td><td>2</td><td rowspan="4">6</td><td></td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="4">４科目
８単位以上を選択</td></tr>
<tr><td>放射線安全管理学特論</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>放射薬品学特論</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>放射線影響学特論</td><td></td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td colspan="2">16</td><td colspan="2">14</td><td>30</td><td></td></tr>
</table>

５．履修内容の説明

現職者を対象とし，将来も保健医療機関で診療放射線技師として従事し，職場で指導的役割を果たすことを目標と

している学生が選択する履修例を示している。

修士論文では『緊急被ばく医療において期待される診療放射線技師の役割：原子力施設を対象とした意識調査』という課題で研究を行う。

そのためには，保健学共通科目の必修科目　保健学研究セミナー2 単位を履修するほかに，放射線防護総論，被ばく医療総論，被ばく医療演習の 3 科目 6 単位，計 8 単位を履修し，被ばく医療に関する知識や他職種との連携を学んだ上で，所属分野の必修科目である，放射線技術科学基礎特論 2 単位，放射線技術科学特別演習 2 単位，放射線技術科学特別研究 10 単位，計 14 単位を履修する。さらに関連する科目として，放射線治療技術学特論 2 単位，放射線安全管理学特論 2 単位，放射薬品学特論 2 単位，放射線影響学特論 2 単位，計 8 単位を履修し，総計 30 単位を履修する。

履修例 11

＜被ばく医療コース＞　生体検査科学領域

生体検査科学領域での履修例

１．対象学生

当該領域に進学を希望する保健学系大学卒業者

２．目標進路

課程終了後，染色体および遺伝子検査を主としている研究施設に勤務し，放射線，薬物や食品の影響評価に従事することを目標としている。

３．修士論文テーマ：

『放射線と種々の発がん物質の染色体への影響の比較検討』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	1年次		2年次		合計	備考
共通科目	放射線防護総論	2	6		2	8	4科目 8単位
	被ばく医療総論	2					
	被ばく医療演習	2					
	保健学研究セミナー	2					
必修科目	生体検査科学基礎特論	2	4		10	14	修士論文
	生体検査科学特別演習	2					
	生体検査科学特別研究			10			
選択科目	細胞生物化学	2	6		2	8	4科目 8単位以上を選択
	腫瘍細胞学特論	2					
	染色体検査学	2					
	染色体解析演習	2					
計		16		14		30	

５．履修内容の説明

染色体および遺伝子解析のトレーニングを行い，将来，薬品関連あるいは食品関連企業の研究施設や，放射線関連施設で染色体および遺伝子の変異解析に関わることを希望する学生が選択する履修例である。

修士論文では，食品にも含まれるニトロソ化合物などの発がん物質の染色体上におこる突然変異誘導能への種々の化学物質の影響を，放射線被ばくによる染色体もしくは遺伝子変異と比較しながら検討する。

この例では，将来的に緊急被ばく医療に対応できる基礎能力の修得のため，保健学共通科目の 4 科目に放射線被ばく関連科目の 6 単位を含む 8 単位を履修する。また，選択科目には細胞，および放射線による細胞の癌化に関する基礎知識の修得のために細胞生物化学と腫瘍細胞学特論，専門知識と技術の修得のために染色体検査学と染色体解析学演習の計 4 科目 8 単位を履修する。必修科目においては生体検査科学基礎特論，生体検査科学特別演習，生体検査科学特別研究の 3 科目 14 単位を履修する。

履修例 12

＜被ばく医療コース＞　総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域での履修例

１．対象学生

当領域に進学を希望する保健学科理学療法学専攻の卒業者

あるいは，一次もしくは二次被ばく医療施設に勤務する理学療法士で，被ばく医療に興味関心がある現職者

２．目標進路

卒業生は博士課程への進学を視野に入れ，将来，放射線被ばくに関連のなる教育者あるいは研究者としての業務に就くことを目標としている。

現職者は，理学療法の研究法を学ぶとともに勤務施設が被ばく医療施設となっていることから，基本的な被ばく医療に関する知識を深める。

３．修士論文テーマ：

『全身もしくは局所被ばくによるリハビリ実施事例の理学療法等のリハビリ内容等の調査および文献的研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	１年次		２年次		合計	備考
共通科目	放射線防護総論	2	6		2	8	4科目 8単位
	被ばく医療総論	2					
	被ばく医療演習	2					
	保健学研究セミナー	2					
必修科目	リハビリテーション科学基礎特論	2	4		10	14	修士論文
	リハビリテーション科学特別演習	2					
	リハビリテーション科学特別研究			10			
選択科目	被ばく医療リハビリテーション科学特論	2	6		2	8	4科目 8単位以上を選択
	被ばく医療看護学特論	2					
	運動療法学特論	2					
	臨床理学療法学研究特論			2			
計		16		14		30	

５．履修内容の説明

保健学系大学の理学療法学専攻卒業者で，将来，大学をはじめとする教育機関において教育・研究に携わることを希望する学生が選択する履修例，および一次もしくは二次被ばく医療施設に勤務する理学療法士で，被ばく医療に興味関心がある現職者の履修例を示している。

修士論文では，全身もしくは局所被ばくによる理学療法等のリハビリ実施例について，国内外の事例調査および症例報告等の文献調査から理学療法等のリハビリ内容の特徴を明らかにすることを目的とした研究を進める。

そのためには，保健学共通科目の必修1科目2単位を履修するとともに，放射線防護総論，被ばく医療総論，被ばく医療演習の3科目計6単位を履修する。必修科目においてはリハビリテーション科学基礎特論，リハビリテーション科学特別演習，リハビリテーション科学特別研究の3科目14単位を履修する。また、選択科目として被ばく医療リハビリテーション科学特論，被ばく医療看護学特論，運動療法学特論，臨床理学療法学研究特論の4科目8単位を履修し，総計30単位を履修する。

履修例 13

＜放射線看護高度看護実践コース＞

〈被ばく医療における看護支援〉選択者の履修例

１．対象学生

本コースに進学を希望する看護師免許を取得した者又は取得見込みの者

２．目標進路

課程修了後，被ばく医療における看護の専門的知識・技術を発揮できる領域で看護師や保健師として従事し，スタッフに対して指導的役割を担う人材となることを目標としている。

３．課題研究論文テーマ：

『放射線災害の中長期に必要とされる看護支援に関する研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	１年次		２年次		合計	備考
共通科目	看護理論	2	14			14	必修科目6科目12単位を含む、14単位以上
	看護研究方法論	2					
	コンサルテーション論	2					
	看護倫理学特論	2					
	フィジカルアセスメント	2					
	病態生理学	2					
	臨床薬理学	2					
専門科目	基礎放射線学特論	2	19		9	28	必修科目10科目26単位を含む、28単位以上
	被ばく医療学特論	2					
	放射線医学特論	2					
	放射線看護学特論	2					
	放射線看護学特別演習	2					
	被ばく医療看護論	2					
	被ばく医療看護方法論	2					
	放射線看護学実習Ⅰ	2					
	放射線看護学実習Ⅱ	3					
	放射線看護学実習Ⅲ			5			
	放射線看護学課題研究			4			
	計	３３		９		４２	

５．履修内容の説明

将来，被ばく医療における看護の専門的知識・技術を発揮できる領域で看護師や保健師として従事することを希望する学生が選択する履修例を示している。

課題研究では，放射線災害の中長期に必要とされる看護支援に関する研究をテーマに，放射線災害による心理・社会・文化的視点も加味して健康問題を包括的に捉え，看護介入及び評価を行うことを目的とした研究を進める。

そのためには，共通科目から必修科目 6 科目 12 単位を含む 14 単位以上，専門科目から必修科目 10 科目 26 単位を含む 28 単位以上，計 42 単位を履修する。

履修例 14

＜放射線看護高度看護実践コース＞

〈医用放射線利用に伴う看護支援〉選択者の履修例

１．対象学生

本コースに進学を希望する看護師免許を取得した者又は取得見込みの者

２．目標進路

課程修了後，医用放射線利用に伴う看護の専門的知識・技術を発揮できる領域で看護師として従事し，スタッフに対して指導的役割を担う人材となることを目標としている。

３．課題研究論文テーマ：

『核医学検査を受ける患者の看護支援に関する研究』

４．履修科目

区分	授　業　科　目	1年次		2年次		合計	備考
共通科目	看護教育学特論	2	14			14	必修科目6科目12単位を含む、14単位以上
	看護研究方法論	2					
	コンサルテーション論	2					
	看護倫理学特論	2					
	フィジカルアセスメント	2					
	病態生理学	2					
	臨床薬理学	2					
専門科目	基礎放射線学特論	2	19		9	28	必修科目10科目26単位を含む、28単位以上
	被ばく医療学特論	2					
	放射線医学特論	2					
	放射線看護学特論	2					
	放射線看護学特別演習	2					
	被ばく医療看護論	2					
	医用放射線看護方法論	2					
	放射線看護学実習Ⅰ	2					
	放射線看護学実習Ⅱ	3					
	放射線看護学実習Ⅲ			5			
	放射線看護学課題研究			4			
	計	33		9		42	

５．履修内容の説明

将来，医用放射線利用に伴う看護の専門的知識・技術を発揮できる領域で看護師や保健師として従事することを希望する学生が選択する履修例を示している。

課題研究では，核医学検査を受ける患者の看護支援に関する研究をテーマに，核医学検査に伴う患者及び家族の被ばく線量の低減に有効な看護支援を明らかにすることを目的とした研究を進める。

そのためには，共通科目から必修科目 6 科目 12 単位を含む 14 単位以上，専門科目から必修科目 10 科目 26 単位を含む 28 単位以上，計 42 単位を履修する。